新刊『 海部津島郷土研究 第四号 』

サイズ ：A5版　　ページ数：168 ページ

全国の自治体では、歴史文化を生かした「まちづくり」が行われています。海部津島地方でも歴史文化講座、郷土本出版、ご当地検定の実施などにより歴史文化の市民共有が進展しています。史料調査研究の蓄積と新たな郷土研究成果の市民共有が本書の刊行目的です。『海部津島郷土研究』は平成 28 年から平成 30 年まで毎年１冊刊行されましたが、その後休刊しました。この度、NPO 法人まちづくり津島と津島市立図書館の協力により、まちづくり事業として『海部津島郷土研究　第４号』を刊行しました。

構成

１　織田弾正忠家三代と戦国期津島の様相

応仁の乱の後、戦国時代が始まりました。尾張の守護斯波氏の盛衰と守護代織田氏の分裂にともなう内乱状況、清須織田大和守家の三奉行の織田弾正忠（だんじょうのじょう）家の勝幡城築城と津島支配、信長の登場と絶え間ない戦さと戦国期津島の繁栄を『信長公記』等を典拠に記述しました。

２　津島天王祭の祭用語「車楽（だんじり）」の語源について

津島天王祭の車楽（だんじり）の語源すなわち由来・意味・いつからについて調査・考察しました。津島天王祭の車屋らは祭舟のことを「台尻（だいじり）」と称していましたが、漢字表記「車楽」は津島牛頭天王社神官の真野時綱が元禄７年（1694）の『藤嶋私記』で使用し始めたことが分かりました。

３　津島天王祭の「御祭礼延引」について－雨天につき延引・御穏便につき延引－

江戸時代、津島天王祭は雨天であっても延引（えんいん）されて必ず行われていました。祭礼延引の理由には「雨天につき延引」と将軍家或いは尾張藩主家に不幸があったときの「御穏便につき延引」の二種類がありました。祭礼延引がどのような手順を経るのか、行事日程の変更内容などを明らかにしました。

発行日 ：令和８年（2026）１月 24 日
著　者：黒田剛司
発行所：NPO 法人まちづくり津島・津島市立図書館
頒価：1,000 円（税込）　送料：210 円